

平成 19 年度
「学生による授業評価」
報 告 書

平成 21 年 3 月

宮崎大学農学部

農学部 FD への取り組みの一つとして

農学部長
原田 宏

「ファカルティ・ディベロップメント(FD)」の用語が国内の大学関係者で使われ始めて、既に15年以上になる。この間、大学審議会答申「21世紀の大学像と今後の改革方策について」(1998年10月)では、「教員が授業内容、方法を改善し、向上させるための組織的な取り組みの総称・・・具体的な例としては、教員相互の授業参観の実施、授業方法についての研究会の開催、新任教員のための研修会の開催などを挙げることができる。」と定義しているが、現実には、教育面にとどまらず、研究や社会貢献を含む広範な教員の活動の資質向上を意味しているといえよう。

農学部では、FDに関連する取り組みの一つとして、毎年、全教員を対象に、担当する全科目についての「学生による授業評価」を組織的にとりまとめ、教育能力改善(個人レベルから組織レベルまで)、カリキュラム改善、組織の自己点検評価、さらには研究能力開発等に活かそうと努力している。

少子化が進行する中、かつて(1960年当時)は、およそ1割程度の、ある意味で限られた希望者が大学生になっていたが、現在ではクラスの半数以上が大学に進学する時代となっている。そのことと関連して、多くの大学は、進学率の増加に伴う平均的な学力水準の低下という大きな問題を抱えている。これに加えて、大学生自体の学習意欲・学問への関心や近い将来の社会生活につながる大学生活に対する心構えの低下も問題を増幅させている。

こうした現状にあって、FDを持続させていく点で基本的にやっておかねばならないことは、個別の講義における教員個人個人の改善や工夫の積み重ねであると考えているが、それら個々の具体的な成果は、個人の資質や価値観、性格等によって異なっているのは当然であろう。ただ、こうした個人ベースの改善を、正当な評価の下で、積極的にかつ効率的に行えるように、学科、学部や大学がバックアップできる体制を整備しておくことが不可欠であると考えている。

よく話題にされる学生の学力低下は、学生本人にとってはもちろんのこと、大学や社会の発展にも大きな問題を投げかけることになる。進学動機が不明確なまま入学し、大学での学びに意欲をもてない学生が増加している今日、新入生に対する導入教育による「意欲の喚起」や、知への「動機づけ」が必要である。特に入学年次におけるそれは、その後の大学生活を左右する大きな力を持つといえる。

農学部では、これらのことを真剣に考え、鋭意検討を続けてきた結果、平成22年4月より、現在5学科で編成している体制を大きく6学科に改組し、学科間の壁を越えた融合領域をより充実させ、外部からより解りやすく、かつ、地域社会に根ざす教育を視座に置き、新たに出発することとした。

この船出に際し、教職員－学生が一体となって、教育・研究や社会貢献を含む広範な活動における資質向上に向け、互いに努力していきたいと考えている。

目 次

	ページ
1. 授業評価実施の方法-----	3
2. 評価結果の集計および表示-----	4
3. 学士課程における授業評価結果-----	5
A. 食料生産科学科-----	5
B. 生物環境科学科-----	7
C. 地域農業システム学科-----	9
D. 応用生物科学科-----	12
E. 獣医学科-----	14
4. 大学院修士課程における授業評価結果-----	17
A. 生物生産科学専攻-----	17
B. 地域資源管理科学専攻-----	18
C. 森林草地環境科学専攻-----	19
D. 水産科学専攻-----	20
E. 応用生物科学専攻-----	21
5. 授業評価の総括-----	22
資料（調査票）-----	23

1. 授業評価実施の方法

授業評価のアンケートは、授業担当教官が質問用紙とマークシート方式の回答用紙を任意の時期（通常は講義の終了時か試験時、実験・実習にあっては終了時）に配布し、実施した。質問用紙は講義用（資料1）と実験・実習用（資料2）の二種類を用意し、いずれの質問用紙も15項目の調査事項から成り、必要に応じて教官が独自に質問事項を追加できるような形式となっている。また、回答用紙には、改善を求めたいこと、その他意見や感想など自由に述べることができる記述欄が設けられている。

アンケートの集計は、教官が授業評価の質問用紙（記述欄を含む）と回答用紙を回収した後、学科担当の非常勤職員の協力を得て、マークシートに●印で回答された用紙についてコンピュータ読取装置により効率的に行った。集計結果は、授業担当教官へフィードバックされるとともに、当該学科のFD委員にも報告される。

2. 評価結果の集計および表示

平成19年度授業評価の結果を取りまとめるに当たり、次の方針に基づき集計・表示した。

(1) 学士課程

- ① 本年度は昨年同様学科単位で講義の内容及び規模別にとりまとめる方針とした。
- ② 区分する項目は以下の内容とする。
 - (1) 実験
 - (2) (フィールド) 実習
 - (3) 講義――規模 小 (40名未満)
 規模 中 (40～60名)
 規模 大 (60名以上)
- ③ 講義については担当教員数による区分を考慮する。
 - (1) 単独
 - (2) 2～4人 (1人4～7コマ)
 - (3) 5人以上 (1人3コマ)
- ④ 質問4の私語への注意については、「5:していた」と「3:そのような私語などはなかった」の両方を私語の無い講義環境を維持するという意味で同質の回答と考えて一括して扱い、合計を百分率で示した。
- ⑥ 質問14と15の予習復習については、「5:した」と「4:少しした」の差はあっても同質の回答と考えて一括して扱い、合計をそれぞれ「予習をした」、「復習をした」の百分率で示した。

(2) 大学院修士課程

- ① 学生による授業評価のアンケート調査を質問1から質問15について実施し、項目ごとに集計した。
- ② 質問13～15の予習・討議への参加・自主学習に関する質問については、「5:した(または、そう思う)」と「4:少しした(または、どちらかというと思う)」の差はあっても同質の回答と考えて一括して扱い、合計をそれぞれ「予習をした」、「討議に参加した」の百分率で示した。
- ③ 集計の結果から教員が特定できないように、教官をアルファベットで表記し、その配列は順不同とした。

3. 学士課程における授業評価結果

A. 食料生産科学科

(1) 講義

授業規模（学生数）による差はいずれの質問項目でも顕著ではなかった。一方、担当教員数の効果については、学習態度に関する項目で規模小の5人以上、規模中の5人以上で低い評価となっているが、いずれも該当する授業数が1と少ない。規模大の5人以上は3例あるものの、7割弱が復習しており、担当教員数による差もいずれの質問項目でも明白ではなかった。

大半の項目が7割以上をこえる満足度を得る中で、学生自身の学習態度に関する項目は概して評価が低かった。質問13：自主的に調べたことがあるは平均3割と最低であった。質問14：予習したがそれに続き平均5割と低く、主体的に学生が学習するようにしむける工夫が授業に必要である。

小規模単独の講義では難易度、内容量の評価が4割前後と低く、平易にかつ内容量を適量にしてほしいという希望も少なからず存在した。

表1-1 食料生産科学科の集計結果(講義)

質問番号	質問内容	選択肢	規模小(40名未満)			規模中(40~60名)			規模大(60名以上)			平均
			単独	2~4人	5人以上	単独	2~4人	5人以上	単独	2~4人	5人以上	
	「この授業方法に関する項目」											
質問1	講義は聞き取りやすかった	5)	86	100	100	78		98	85	61	83	87
質問2	講義のスピードは適切だった	5)	86	96	94	93		100	88	61	74	87
質問3	視覚覚機器は適切であった	5)	83	60	100	90		98	87	83	78	85
質問4	私語などを注意していた	5)と3)	69	100	90	87		96	92	90	67	86
	平均(1-3)		81	89	96	87		98	88	74	76	86
	「講義の内容に関する項目」											
質問5	シラバスはわかりやすかった	5)	80	92	87	82		76	79	70	60	78
質問6	講義の目標は理解できた	5)	88	92	97	90		96	91	83	82	90
質問7	講義に興味を持てた	5)	89	92	100	91		96	91	80	90	91
質問8	ねらいは明確にされていた	5)	86	96	97	84		96	88	80	79	88
質問9	授業の内容は準備されていた	5)	93	96	97	99		100	97	97	94	97
質問10	説明は理解しやすかった	5)	76	80	84	91		96	90	87	85	86
質問11	難易度は適切であった	4)	45	92	94	72		100	74	83	57	77
質問12	内容の量は適切であった	4)	37	84	90	80		98	78	73	54	74
	平均(5-12)		74	91	93	86		95	86	82	75	85
	「学生自身の学習態度に関する項目」											
質問13	自主的に調べたことがある	5)	38	72	29	29		27	31	16	28	34
質問14	予習した	5)と4)	70	76	39	65		23	61	51	43	54
質問15	復習した	5)と4)	84	88	52	79		31	79	63	68	68
	平均(13-15)		64	79	40	58		27	57	43	46	52
	平均(1-15)		74	87	82	80		81	80	71	69	78

表1-2 食料生産科学科の集計結果(講義)

		受講生数			平均
		規模小(40名未満)	規模中(40~60名)	規模大(60名以上)	
教員数	単独	23	51	81	52
	2~4人	25		70	48
	5人以上	31	48	134	71
平均		26	49	95	57

(2) 実験・実習

実験・実習の中で最も不満が多かったのは質問2：時間設定であった。授業の性格上、配当時間を超えて実験・実習が行われた可能性は高い。あらかじめ、ガイダンスなどで、十分な説明を行い、学生に納得してもらうことは不可欠だろう。ガイダンスは授業冒頭のみならず、年次始め、4月のガイダンスでも伝えておく必要はある。学生の本分は学業であり、実験・実習によって課外活動やアルバイトに支障を来すこともありうることを明確にしておくべきだろう。同時に、実験・実習のスケジュールを時間帯も含めて、各授業で刷り物等にしてわたすなどの配慮は必要だろう。

不満に関する平均は2%であり、実験・実習に関する満足度は概ね良好といえる。

表1-3 食料生産科学科の集計結果(実験・実習)

			実験	実習	平均
	受講生数		29	41	35
	教員数		3	11	7
質問番号	質問内容	選択肢			
質問1	シラバス	1)と2)	1	0	0
質問2	時間設定	1)と2)	17	4	10
質問3	配布資料	1)と2)	1	1	1
質問4	実習に関する説明	1)と2)	6	0	3
質問5	機械・器具の使用法の説明	1)と2)	3	0	1
質問6	実習前・実習中の説明	1)と2)	2	0	1
質問7	教官としての熱意	1)と2)	1	0	1
質問8	学生の質問に対する対応	1)と2)	1	0	0
質問9	機械・器具の配分	1)と2)	6	2	4
質問10	不適切な学生への指導	1)と2)	5	1	3
質問11	レポートの書き方の指導	1)と2)	6	2	4
質問12	レポートの考察や学習課題への	1)と2)	4	2	3
質問13	レポートの評価	1)と2)	2	2	2
質問14	実験技術の向上	1)と2)	3	1	2
質問15	TAの指導補助	1)と2)	1	0	0
平均(1-15)			4	1	2

注: 1)は非常に不満, 2)はやや不満

B. 生物環境科学科

集計結果は講義科目と実験実習に分けて取り扱った。また講義科目については教員数と受講生の規模別に9グループに分けて分析した。

(1) 講義

H19年度の講義形式科目についての集計結果を表2-1に示す。質問1から4は講義方法に関する項目、質問5から12は講義内容に関する項目、質問13から15は学生の学習態度に関する項目となっている。表における数値は、それぞれの質問項目について満足度が高いと答えた回答数を百分率で表したものである。

いずれの質問項目においても、授業規模（学生数）による大きな差は見いだせない。また、いずれの質問項目においても、担当教員数による大きな差は見いだせないが、単独で担当した科目でやや満足度が高くなる傾向がみられた。全体の平均から教員数、授業の規模に関わらず8割以上の満足度が得られた。予習や復習についても、それぞれ約7割と8割の学生が取り組んでいた。

最も評価の低かった質問は、「質問13：自主的に調べたことがある」であった。この結果から、自主的に調べたことがある学生は昨年の41%に比べ45%と増加したものの、学生が自主的に調べるようにさらに誘導する講義をおこなう必要がある。

次に評価の低かった質問は、「質問11：難易度は適切であった」、「質問12：内容の量は適切であった」であった。これらの質問に対しては規模が大きく教員数が多いほど評価が低くなる傾向がみられた。

講義ごとにみると、「視聴覚機器の使用」、「講義のスピード」の項目において、満足度が4割から5割ものが散見された。しかし、全体的に講義ごとの満足度は前年に比べて向上した。

表2-1 生物環境科学科の集計結果(講義)

質問番号(質問内容)	選択肢	規模小(40名未満)			規模中(40~60名)			規模大(60名以上)			平均	
		単独	2~4人	5人以上	単独	2~4人	5人以上	単独	2~4人	5人以上		
「この授業方法に関する項目」												
質問1	講義は聞き取りやすかった	5)	94	95	100	90	83		89	83	85	90
質問2	講義のスピードは適切だった	5)	93	92	96	89	80		92	78	78	87
質問3	視聴覚機器は適切であった	5)	90	81	88	84	74		90	81	81	84
質問4	私語などを注意していた	5)と3)	93	97	100	94	91		94	88	88	93
平均(1-3)			92	91	96	89	82		91	82	83	88
「講義の内容に関する項目」												
質問5	シラバスはわかりやすかった	5)	87	92	62	86	83		87	69	78	80
質問6	講義の目標は理解できた	5)	93	97	96	93	87		95	76	87	90
質問7	講義に興味を持てた	5)	93	97	94	90	87		95	86	90	92
質問8	ねらいは明確にされていた	5)	94	86	93	90	78		93	85	86	88
質問9	授業の内容は準備されていた	5)	98	92	98	95	93		99	94	90	95
質問10	説明は理解しやすかった	5)	93	84	98	90	85		94	77	87	88
質問11	難易度は適切であった	4)	85	76	74	82	65		83	67	73	76
質問12	内容の量は適切であった	4)	84	78	85	75	74		79	62	69	76
平均(5-12)			91	88	87	88	82		91	77	82	86
「学生自身の学習態度に関する項目」												
質問13	自主的に調べたことがある	5)	36	41	76	40	41		39	40	46	45
質問14	予習した	5)と4)	72	81	88	70	70		72	74	59	73
質問15	復習した	5)と4)	86	92	74	83	80		89	87	72	83
平均(13-15)			65	71	79	64	64		67	67	59	67
平均(1-15)			86	85	88	83	78		86	76	78	83

表2-2 生物環境科学科の集計結果(講義)

		受講生数			平均
		規模小(40名未満)	規模中(40~60名)	規模大(60名以上)	
教員数	単独	86	83	86	85
	2~4人	85	78	76	80
	5人以上	88		78	83
平均		87	81	80	83

(2) 実験・実習

実験・実習ともに、すべての質問の平均値でみると不満は2%と小さいことがわかる。

質問ごとにみると、最も不満が多かった質問は、「質問2：時間設定」であった。実験・実習の内容によっては、どうしても長時間になる場合も考えられるため、十分な説明が必要である。

また、実験に比べて実習での不満が高くなる傾向が見られた。実習のみで「質問11：レポートの書き方指導」、「質問12：レポートの考察や学習課題への助言」でやや不満度が大きい。次に「質問3：配布資料」、「質問4：実習に関する説明」に対する不満が高かった。そのため、実習においてはこれらの項目に関して学生に十分に説明する必要があると考えられる。

表2-3 生物環境科学科の集計結果(実験・実習)

		実験	実習	平均	
受講生数		24	26	25	
教員数		3	3	3	
質問番号	質問内容	選択肢			
質問1	シラバス	1)と2)	0	0	0
質問2	時間設定	1)と2)	2	11	6
質問3	配布資料	1)と2)	0	4	2
質問4	実習に関する説明	1)と2)	0	4	2
質問5	機械・器具の使用法の説明	1)と2)	0	2	1
質問6	実習前・実習中の説明	1)と2)	0	3	2
質問7	教官としての熱意	1)と2)	0	1	0
質問8	学生の質問に対する対応	1)と2)	0	1	1
質問9	機械・器具の配分	1)と2)	1	2	2
質問10	不適切な学生への指導	1)と2)	0	1	0
質問11	レポートの書き方の指導	1)と2)	1	6	4
質問12	レポートの考察や学習課題への	1)と2)	1	5	3
質問13	レポートの評価	1)と2)	0	1	0
質問14	実験技術の向上	1)と2)	0	1	1
質問15	TAの指導補助	1)と2)	0	0	0
平均(1-15)			0	1	2

注:1)は非常に不満, 2)はやや不満

C. 地域農業システム学科

集計結果は講義科目と実験実習に分けて取り扱った。また講義科目については教員数と受講生の規模別に9グループに分けて分析した。

(1) 対象科目数および受講（アンケート回答）学生数

学科専門基礎科目と専門科目の本学科教員担当科目78科目中、87%にあたる68科目でアンケートを実施した。このうち、教員一人が単独で担当した講義科目が51科目、複数の教員が分担して担当した講義科目が6科目、実験及び実習が11科目である。1科目あたりのアンケート回答数は、最小4名、最大117名であり、集計科目の半数余りが「教員一人が単独で担当した受講生40名未満の講義科目」に分類された。

(2) 講義

H19年度の講義形式科目についての集計結果を表3-1に示す。質問1から4は講義方法に関する項目、質問5から12は講義内容に関する項目、質問13から15は学生の学習態度に関する項目となっている。表における数値は、それぞれの質問項目について満足度が高いと答えた回答数を百分率で表したものである。

①講義方法について

講義の聞き取りやすさやスピードなど、講義方法に関してはどのグループも概ね80%以上の受講生が満足だと感じており、全体として大きな問題は無いものとする。またH18年度の集計において課題として挙げられた大規模・単独教員による講義での視聴覚機器の使用法について、学生の満足度がH18年度の68ポイントからH19年度は77ポイントまで上昇しており、改善努力が結果としてあらわれている。しかし、まだ大規模の単独教員による講義を中心に、学生による評価が60%台の講義がいくつか残っており、今後も引き続き、大規模講義を中心に講義方法の改善努力が必要である。

②講義内容について

講義内容について、どのグループも概ね80%以上の受講生が満足だと感じており、全体としては大きな問題はない。しかしH18年度とH19年度の間で学生の評価はほとんど変わっておらず、H18年度の集計の際に課題として取り上げた「大規模入門講義のシラバス改善」と、「講義内容や難易度に関する評価の低い教員の個別改善」について、数値として結果が表れていない。今後引き続きこの2点の改善努力をする必要がある。

③学生自身の学習態度に関する項目

学生自身の学習態度については、まだ評価が低く問題はあるものの、H18と比べるとかなりの改善はみられる。学習態度評価の上昇はほとんどのグループで見られ、例えば講義科目の過半数を占める小規模単独教員講義では、「自主的に調べたことがある」・「予習した」・「復習した」と答えた学生が、H18年度はそれぞれ33%・63%・78%であったのに対

し、H19年度ではそれぞれ36%・73%・85%と、特に予習復習において大幅な改善がみられた。数値が目立って低い「自主的に調べたことがある」という項目について、評価を上げるためには各教員が学生に講義内容の面白さを効率的に伝える一層の工夫が必要である。

④教員数と受講生数との関係

表3-2に教員数と受講生数の違いによる平均満足度の分布を示す。教員数については、単独教員と2~4人、5人以上の間で有意な差は見られなかった。講義規模については、大規模講義における評価値が小・中規模講義に比べると低くなっている。これは大規模授業では個々の学生に目が届きにくいことを反映しているのかもしれない。また、大規模講義には入門や専門基礎が多く、専門科目に比べて学生側の関心が低いことも影響している可能性がある。

表3-1 地域農業システム学科の集計結果(講義)

質問番号	質問内容	選択肢	規模小(40名未満)			規模中(40~60名)			規模大(60名以上)			平均
			単独	2~4人	5人以上	単独	2~4人	5人以上	単独	2~4人	5人以上	
「この授業方法に関する項目」												
質問1	講義は聞き取りやすかった	5)	88	97		83	87	94	77		86	87
質問2	講義のスピードは適切だった	5)	87	100		90	89	94	84		85	90
質問3	視聴覚機器は適切であった	5)	85	97		84	79	94	77		84	86
質問4	私語などを注意していた	5)と3)	93	97		90	94	84	80		79	88
平均(1-3)			88	98		87	87	92	79		84	88
「講義の内容に関する項目」												
質問5	シラバスはわかりやすかった	5)	80	90		80	86	88	72		57	79
質問6	講義の目標は理解できた	5)	88	94		87	88	90	82		74	86
質問7	講義に興味を持てた	5)	88	90		86	88	90	80		74	85
質問8	ねらいは明確にされていた	5)	89	94		88	89	90	80		79	87
質問9	授業の内容は準備されていた	5)	94	97		95	96	94	86		90	93
質問10	説明は理解しやすかった	5)	83	100		86	88	90	77		74	85
質問11	難易度は適切であった	4)	71	61		74	61	80	73		66	69
質問12	内容の量は適切であった	4)	78	87		79	63	86	74		68	76
平均(5-12)			84	89		85	82	89	78		73	83
「学生自身の学習態度に関する項目」												
質問13	自主的に調べたことがある	5)	36	45		30	31	49	31		26	35
質問14	予習した	5)と4)	73	87		67	71	57	73		55	69
質問15	復習した	5)と4)	85	94		80	88	67	84		70	81
平均(13-15)			65	75		59	63	58	63		50	62
平均(1-15)			81	89		80	80	83	75		71	80

表3-2 地域農業システム学科の集計結果(講義)

		受講生数			平均
		規模小(40名未満)	規模中(40~60名)	規模大(60名以上)	
教員数	単独	81	80	75	79
	2~4人	89	80		84
	5人以上		83	71	77
平均		85	81	73	80

(2) 実験・実習

実験・実習については、講義における集計とは逆に学生による満足度が低い回答について集計しており、集計結果を表3-3に示している。平均的には実験・実習とも、全ての項目において不満足と回答した学生数は10%を下回り、学生は概ね満足していることがわかった。

表3-3 地域農業システム学科の集計結果(実験・実習)

			実験	実習	平均
	受講生数		24	40	32
	教員数		3	6	5
質問番号	質問内容	選択肢			
質問1	シラバス	1)と2)	0	1	0
質問2	時間設定	1)と2)	1	4	2
質問3	配布資料	1)と2)	1	2	2
質問4	実習に関する説明	1)と2)	2	1	2
質問5	機械・器具の使用法の説明	1)と2)	1	4	2
質問6	実習前・実習中の説明	1)と2)	0	1	1
質問7	教官としての熱意	1)と2)	1	3	2
質問8	学生の質問に対する対応	1)と2)	0	2	1
質問9	機械・器具の配分	1)と2)	0	3	1
質問10	不適切な学生への指導	1)と2)	2	1	2
質問11	レポートの書き方の指導	1)と2)	1	5	3
質問12	レポートの考察や学習課題への	1)と2)	0	6	3
質問13	レポートの評価	1)と2)	1	1	1
質問14	実験技術の向上	1)と2)	1	1	1
質問15	TAの指導補助	1)と2)	1	1	1
平均(1-15)			1	2	2

注: 1)は非常に不満, 2)はやや不満

D. 応用生物科学科

応用生物科学科の教員が担当する科目で、複数人数で小規模の講義を担当している科目はなく、単独で担当している小規模科目は7科目であった。単独で担当している中規模科目は11科目、複数教員で担当している科目が、2-4人で2科目、5人以上で卒業論文も含めて5科目であった。大規模科目では単独で担当している科目が19科目、2-4人が3科目であった。これは授業評価の回収数を受講生数にしているため、本来はより多くの学生が受講しているものと思われる。

(1) 講義

「授業方法に関する項目」

質問1～4まで、すべて80%以上の高い評価を得ている。特に私語に対する注意は91%の高い評価であった。

「講義の内容に関する項目」

いずれの項目も高い評価を得ているが、問題点を挙げるとすると、質問11、12で80%を下回る結果となっていた。これは講義によって難易度の高いものや講義内容が多いと感じられるものがあつたことに起因している。講義内容の難易度は科目によるため、一概に簡単な内容に変えることが必要とは言えない。「講義に興味を持てた」との回答が90%であり、講義の工夫が伺える。

「学生自身の学習態度に関する項目」

質問13の自主的に調べたことがあると答えた学生は40%に留まり、「講義に興味を持てた」のに自主的に調べていないことになる。予習復習を行っている学生は70%前後であり、決して低いとは言えないが、特に予習の習慣を身につけさせる工夫が必要であろう。

表4-1 応用生物科学科の集計結果(講義)

質問番号	質問内容	選択肢	規模小(40名未満)			規模中(40~60名)			規模大(60名以上)			平均
			単独	2~4人	5人以上	単独	2~4人	5人以上	単独	2~4人	5人以上	
	「この授業方法に関する項目」											
質問1	講義は聞き取りやすかった	5)	80			77	79	97	85	79		83
質問2	講義のスピードは適切だった	5)	80			87	88	99	84	88		88
質問3	視聴覚機器は適切であった	5)	88			89	81	90	87	81		86
質問4	私語などを注意していた	5)と3)	93			88	90	97	88	90		91
	平均(1-3)		85			85	84	96	86	84		87
	「講義の内容に関する項目」											
質問5	シラバスはわかりやすかった	5)	87			85	75	91	83	75		83
質問6	講義の目標は理解できた	5)	86			90	87	97	88	87		89
質問7	講義に興味を持てた	5)	91			89	87	97	90	87		90
質問8	ねらいは明確にされていた	5)	88			82	72	91	90	72		83
質問9	授業の内容は準備されていた	5)	96			93	91	98	95	91		94
質問10	説明は理解しやすかった	5)	83			84	83	93	85	83		85
質問11	難易度は適切であった	4)	74			79	82	83	70	82		78
質問12	内容の量は適切であった	4)	79			79	77	90	73	77		79
	平均(5-12)		85			85	82	92	84	82		85
	「学生自身の学習態度に関する項目」											
質問13	自主的に調べたことがある	5)	47			26	29	75	34	29		40
質問14	予習した	5)と4)	70			63	72	59	69	72		68
質問15	復習した	5)と4)	84			80	71	73	82	71		77
	平均(13-15)		67			56	57	69	62	57		61
	平均(1-15)		82			79	78	89	80	78		81

表4-2 応用生物科学科の集計結果(講義)

		受講生数			平均
		規模小(40名未満)	規模中(40~60名)	規模大(60名以上)	
教員数	単独	28	51	84	54
	2~4人		49	92	71
	5人以上		49		49
平均		28	50	88	58

(2) 実験・実習

ここでの集計は不満に関する集計である。平均的には大きな不満はないように見受けられるが、時間設定と機器の配分についての不満が高い。この二つの項目は相互に関連しており、機器の数が少なく、交代で使用しなければならないため、時間が長くかかる等の意見であると思われる。高額機器などは致仕方ないと思われるが、ガラス器具等の配分や機材に関する説明をしっかりと行うことで理解を得ていきたい。

表4-3 応用生物科学科の集計結果(実験・実習)

			実験	実習	平均
受講生数			46		46
教員数			3		3
質問番号	質問内容	選択肢			
質問1	シラバス	1)と2)	0		0
質問2	時間設定	1)と2)	5		5
質問3	配布資料	1)と2)	3		3
質問4	実習に関する説明	1)と2)	3		3
質問5	機械・器具の使用法の説明	1)と2)	2		2
質問6	実習前・実習中の説明	1)と2)	3		3
質問7	教官としての熱意	1)と2)	1		1
質問8	学生の質問に対する対応	1)と2)	1		1
質問9	機械・器具の配分	1)と2)	4		4
質問10	不適切な学生への指導	1)と2)	1		1
質問11	レポートの書き方の指導	1)と2)	1		1
質問12	レポートの考察や学習課題への	1)と2)	2		2
質問13	レポートの評価	1)と2)	0		0
質問14	実験技術の向上	1)と2)	0		0
質問15	TAの指導補助	1)と2)	1		1
平均(1-15)			2		2

注: 1)は非常に不満, 2)はやや不満

E. 獣医学科

集計結果は講義科目と実験・実習に分けて取り扱った。講義科目については教員数と受講生の規模別に4グループに分けて分析した。

(1) 講義

前・後期あわせて45(単独 38、複数 3)の講義について回答を得た。獣医学科は30名であるので、小規模講義であるが、他の学科との合同講義の場合は中規模講義となる。

小規模単独は講義33あり、平均受講生数31名、中規模単独講義は4あり、平均受講生数60名、大規模単独講義は1で、受講生数74名であった。

「この授業方法に関する項目」

については一応高い値を示し学生は授業に対して概ね満足していると思われる。

「講義の内容に関する項目」

についても、学生がの満足度が概ね80%を超えており、大きな問題は見当たらない。ただ講義科目数自体は少ないものの、中規模及び大規模講義において学生の満足度がやや低下しており、中でもシラバスのわかりやすさや説明の理解度を問う項目での評価が低いため、来年度以降で改善の必要がある。

「学生自身の学習態度に関する項目」

では、半数近くの学生が、予習・復習を行い、自主的な学習を行っている。満足すべきであろう。

表5-1 獣医学科の集計結果(講義)

受講生数			小規模 (40未満)		中規模(40-60)	大規模(60以上)	平均
教員数(講義数)			単独(33)	複数(3)	単独(4)	単独(1)	
受講生数			31	31	60	74	
アンケート数			29	30	46	74	
教員数			1	4	1	1	
質問番号	質問内容	選択肢					
「この授業方法に関する項目」							
質問1	講義は聞き取りやすかった	5)	86	92	59	67	76
質問2	講義のスピードは適切だった	5)	82	89	70	53	74
質問3	視聴覚機器は適切であった	5)	82	89	43	62	69
質問4	私語などを注意していた	-	-	-	-	-	-
平均(1-3)			83	90	57	61	73
「講義の内容に関する項目」							
質問5	シラバスはわかりやすかった	5)	76	78	57	48	65
質問6	講義の目標は理解できた	5)	93	86	83	66	82
質問7	講義に興味を持てた	5)	93	86	91	67	84
質問8	ねらいは明確にされていた	5)	89	89	74	62	79
質問9	授業の内容は準備されていた	5)	93	93	89	69	86
質問10	説明は理解しやすかった	5)	86	89	67	63	76
質問11	難易度は適切であった	-	-	-	-	-	-
質問12	内容の量は適切であった	-	-	-	-	-	-
平均(5-12)			88	87	77	63	79
「学生自身の学習態度に関する項目」							
質問13	自主的に調べたことがある	5)	55	64	46	17	46
質問14	予習した	5)と4)	66	64	52	41	56
質問15	復習した	5)と4)	79	71	85	68	76
平均(13-15)			67	66	61	42	59

(2) 実験・実習

前・後期あわせて22 (実験 4、実習 18) の実験・実習について回答を得た。

講義とは異なり 実験・実習に対する不満度 (1)は非常に不満, 2)はやや不満) について調べた。全体的には実習に対する不満はないように思われる。

“質問 2: 時間設定” に不満度があるが、生きた動物を扱う上では時間をきちんと設定することは困難である。学生もこの点は理解してほしい。

実習は質問 2 を除いてほぼ満足度の高いものであったが。実験で“質問 4.5.6.7.9 ”で不満度が高く、そのうち、質問 4.5.7 については教員が改善すべきと思われる。質問 9 は高額機器が多いため、予算の関係上仕方ない。

表5-2 獣医学科の集計結果(実験・実習)

			実習(18)	実験(4)	平均
	受講生数		30	29	30
	教員数		1	1	1
質問番号	質問内容	選択肢			
質問1	シラバス	1)と2)	0	0	0
質問2	時間設定	1)と2)	2	1	2
質問3	配布資料	1)と2)	1	1	1
質問4	実習に関する説明	1)と2)	1	3	2
質問5	機械・器具の使用法の説明	1)と2)	1	3	2
質問6	実習前・実習中の説明	1)と2)	0	2	1
質問7	教官としての熱意	1)と2)	0	3	2
質問8	学生の質問に対する対応	1)と2)	0	0	0
質問9	機械・器具の配分	1)と2)	1	3	2
質問10	不適切な学生への指導	1)と2)	1	0	1
質問11	レポートの書き方の指導	1)と2)	1	1	1
質問12	レポートの考察や学習課題への助言	1)と2)	1	1	1
質問13	レポートの評価	1)と2)	1	0	1
質問14	実験技術の向上	1)と2)	0	1	1
質問15	TAの指導補助	1)と2)	0	0	0
	平均		1	1	1

注: 1)は非常に不満, 2)はやや不満

4. 大学院修士課程における授業評価結果

A. 生物生産科学専攻

少人数の授業のため、全体的に満足度は高い。

質問 13：予習した、質問 13：討議等に積極的に参加した、質問 10：難易度は適切であった、以上 3 項目が 7 割であったが、それ以外は 8 割以上の満足度を得ており概ね良好な評価を得た。

表6 生物生産科学専攻の集計結果(教員別)

質問番号	質問内容	担当教員															平均
		A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N		
「授業方法に関する項目」																	
質問1	講義のスピードは適切だった	88	100	88	80	80	86	100	100	100	81	15	91	100	100	86	
質問2	視聴覚機器は適切であった	100	29	88	100	100	43	100	100	50	94	90	70	100	100	83	
質問3	配布資料は役に立った	75	86	88	100	100	100	100	100	94	100	100	91	100	100	95	
質問4	授業の形態は適切であった	100	86	100	100	80	100	100	100	89	100	15	82	100	78	88	
質問5	教員の対応は丁寧であった	100	100	100	80	100	100	100	100	100	65	91	100	100	100	95	
	平均(1-5)	93	80	93	92	92	86	100	100	87	95	57	85	100	96	90	
「講義の内容に関する項目」																	
質問6	シラバスは分かりやすかった	100	100	100	80	100	100	100	100	69	81	100	91	71	78	91	
質問7	講義の目標は理解できた	100	100	100	100	100	100	100	100	89	100	100	91	100	78	97	
質問8	講義に興味を持てた	100	100	100	100	100	100	100	100	83	100	90	91	100	78	96	
質問9	説明は理解しやすかった	100	100	88	100	100	100	100	100	89	75	100	82	100	100	95	
質問10	難易度は適切であった	88	100	88	80	80	86	100	75	78	63	5	82	93	78	78	
質問11	内容の量は適切であった	100	100	88	80	80	86	100	100	89	81	75	82	100	89	88	
質問12	有益な情報や示唆を与えた	100	100	100	100	100	100	100	100	89	100	5	91	100	89	91	
	平均(6-12)	98	100	95	91	94	96	100	96	84	86	68	87	95	84	91	
「学生自身の学習態度に関する項目」																	
質問13	予習した	25	100	63	100	60	43	67	75	94	75	100	100	79	22	72	
質問14	討議などに積極的に参加した	63	100	88	80	80	57	100	100	39	50	55	64	93	78	75	
質問15	さらに学習を深めたいと思った	50	100	88	100	100	100	100	100	72	75	70	91	100	56	86	
	平均(13-15)	46	100	80	93	80	67	89	92	69	67	75	85	90	52	77	
回答者数		10	8	8	5	6	7	7	5	18	16	20	11	14	9	10	

B. 地域資源管理科学専攻

大学院修士課程の講義については、担当教員ごとに学生の受講満足度を集計した。講義科目担当教員（教授、准教授、講師）を対象として、15 質問項目について集計した。なお、アンケート結果未提出の教員は集計から除外した。また、複数教員で担当されている科目のアンケート結果も集計している。

H19年度の集計結果を表7に示す。表中では各教員がアルファベットで表記されている。集計結果の概要は以下のとおりである。

表中の「C 教員」による講義は農工連携科目であり、他の講義に比べて学生の満足度がやや低かった。講義の特性上やむを得ない部分もあるが、視聴覚機器の利用法や講義内容の一層の改善など行うことにより、今後の改善につなげていきたい。一般の講義については概ね学生の満足度は高く、全体的な問題は見受けられない。

表7 地域資源管理科学専攻の集計結果(教員別)

質問番号	質問内容	担当教員						平均
		A	B	C	D	E	F	
「授業方法に関する項目」								
質問1	講義のスピードは適切だった	100	100	91	100	100	100	98
質問2	視聴覚機器は適切であった	100	100	64	100	100	86	92
質問3	配布資料は役に立った	100	100	82	100	100	100	97
質問4	授業の形態は適切であった	100	100	82	75	100	100	93
質問5	教員の対応は丁寧であった	100	100	82	100	100	100	97
	平均(1-5)	100	100	80	95	100	97	95
「講義の内容に関する項目」								
質問6	シラバスはわかりやすかった	100	100	73	100	80	86	90
質問7	講義の目標は理解できた	100	100	73	100	100	100	96
質問8	講義に興味を持てた	100	100	73	100	100	100	96
質問9	説明は理解しやすかった	100	100	82	75	100	100	93
質問10	難易度は適切であった	100	100	100	100	100	79	96
質問11	内容の量は適切であった	100	100	91	100	100	93	97
質問12	有益な情報や示唆を与えた	100	100	73	100	100	93	94
	平均(6-12)	100	100	81	96	97	93	95
「学生自身の学習態度に関する項目」								
質問13	予習した	100	100	55	50	80	93	80
質問14	討議などに積極的に参加した	100	100	45	100	100	86	89
質問15	さらに学習を深めたいと思った	100	100	73	100	100	93	94
	平均(13-15)	100	100	58	83	93	91	87
回答者数		35	2	6	7	2	6	93.2

C. 森林草地環境科学専攻

大学院修士課程の講義については、担当教員ごとに学生の受講満足度を集計した。講義科目担当教員（教授、准教授、助教）を対象として、15 質問項目について集計した。なお、複数教員で担当されている科目のアンケート結果も、集計に加えた。また、誤って学部用のアンケート用紙でアンケートを実施した科目は集計から削除した。

H19年度の集計結果を表8に示す。表中では各教員がアルファベットで表記されている。「担当教員 A」と「担当教員 I」は領域共通科目であり、複数教員で担当している。集計結果の概要は以下のとおりである。

少人数授業のためか、全体に学生の満足度が高い。最も、満足度が小さかった質問は、「質問14：討議などに積極的に参加した」であり、少人数講義であるにもかかわらず、平均で62%の学生しか討議に参加していない。H18年度の56%よりも改善されているものの、討議に参加しやすいように、学生を誘導するような工夫が必要であるかもしれない。

つぎに満足度が小さかった質問は、「質問10：難易度は適切であった」であり、難易度が高すぎると判断されている傾向がある。平均で69%の学生は満足しているものの、H18年度の73%に比べて満足度が低下した。

H18年度に比べて講義受講者数が大幅に増加しており、他専攻からの受講者が多かった科目もあった。大学院の講義であるため専門性が高くなっており、他専攻からの受講者は講義内容を理解しにくい。このため、H19年度で満足度がやや低下したのではないかと考えた。専門性を高めるとともに、多様な受講生が理解できるように講義を改善することは容易ではないが、今後検討する必要がある。

表8 森林草地環境科学専攻の集計結果(教員別)

質問番号	質問内容	担 当 教 員(森林科学)								担 当 教 員(草地環境科学)						平均
		A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	
「授業方法に関する項目」																
質問1	講義のスピードは適切だった	100	91	90	100	100	100	100	88	75	100	88	100	100	88	94
質問2	視覚機器は適切であった	100	100	90	0	100	56	92	100	75	50	88	100	50	75	77
質問3	配布資料は役に立った	100	100	90	100	100	100	100	100	75	100	100	100	88	100	97
質問4	授業の形態は適切であった	100	100	100	82	100	78	100	100	100	100	100	89	75	88	94
質問5	教員の対応は丁寧であった	100	100	100	82	100	100	100	100	100	100	88	100	100	100	98
	平均(1-5)	100	98	94	73	100	87	98	98	85	90	93	98	83	90	92
「講義の内容に関する項目」																
質問6	シラバスはわかりやすかった	100	100	80	45	82	100	92	100	75	100	88	78	88	88	87
質問7	講義の目標は理解できた	100	100	100	64	100	100	100	100	100	100	88	89	88	100	95
質問8	講義に興味を持てた	100	100	100	64	100	100	85	100	100	100	100	78	63	100	92
質問9	説明は理解しやすかった	100	91	90	27	91	100	92	88	75	100	75	67	75	100	84
質問10	難易度は適切であった	100	82	100	73	45	89	77	63	75	88	50	22	75	88	73
質問11	内容の量は適切であった	100	91	100	64	100	89	77	100	50	100	75	78	88	63	84
質問12	有益な情報や示唆を与えた	100	100	100	64	100	100	92	100	100	100	88	78	88	100	93
	平均(6-12)	100	95	96	57	88	97	88	93	82	98	80	70	80	91	87
「学生自身の学習態度に関する項目」																
質問13	予習した	33	82	40	82	64	89	46	75	75	50	88	88	88	100	71
質問14	討議などに積極的に参加した	100	45	100	36	18	67	46	63	75	38	75	75	75	75	63
質問15	さらに学習を深めたいと思った	100	91	100	64	82	78	62	88	100	75	63	100	63	63	80
	平均(13-15)	78	73	80	61	55	78	51	75	83	54	75	88	75	79	72
回答者数		3	11	10	11	11	9	13	8	4	8	8	9	8	8	86

D. 水産科学専攻

大学院修士課程の講義については、担当教員ごとに学生の受講満足度を集計した。講義科目担当教員（教授、准教授、助教）を対象として、15 質問項目について集計した。なお、複数教員で担当されている科目のアンケート結果も、集計に加えた。

H19年度の集計結果を表9に示す。表中では各教員がアルファベットで表記されている。「担当教員 A」は領域共通科目であり、複数教員で担当している。集計結果の概要は以下のとおりである。

少人数授業のためか、全体に学生の満足度が高い。最も満足度が小さかった質問は、「質問10：難易度は適切であった」であり、難易度が高すぎると判断されている傾向がある。ただし、平均で74%の学生は満足しているので、問題があるレベルではない。H18年度に比べ受講生が大幅に増加しており、そのためやや満足度が低下したと考えられた。

表9 水産科学専攻の集計結果(教員別)

質問番号	質問内容	担当教員								平均
		A	B	C	D	E	F	G	H	
「授業方法に関する項目」										
質問1	講義のスピードは適切だった	93	70	100	94	100	100	93	88	92
質問2	視聴覚機器は適切であった	100	90	57	100	100	56	100	88	86
質問3	配布資料は役に立った	93	90	100	94	100	100	100	100	97
質問4	授業の形態は適切であった	93	100	100	100	100	100	100	100	99
質問5	教員の対応は丁寧であった	100	100	100	100	100	100	100	100	100
平均(1-5)		96	90	91	98	100	91	99	95	95
「講義の内容に関する項目」										
質問6	シラバスはわかりやすかった	87	60	86	81	93	100	93	100	88
質問7	講義の目標は理解できた	100	100	100	100	100	100	100	100	100
質問8	講義に興味を持てた	100	100	86	100	100	100	93	100	97
質問9	説明は理解しやすかった	93	100	100	100	100	100	87	88	96
質問10	難易度は適切であった	87	70	86	94	80	56	47	75	74
質問11	内容の量は適切であった	93	100	86	88	93	89	87	88	90
質問12	有益な情報や示唆を与えた	93	60	100	94	100	78	100	100	91
平均(6-12)		93	84	92	94	95	89	87	93	91
「学生自身の学習態度に関する項目」										
質問13	予習した	87	50	29	75	93	78	100	100	76
質問14	討議などに積極的に参加した	80	40	71	100	100	78	73	100	80
質問15	さらに学習を深めたいと思った	93	80	100	94	93	100	80	100	93
平均(13-15)		87	57	67	90	96	85	84	100	83
回答者数		15	10	7	16	15	9	15	8	91

E. 応用生物科学専攻

授業評価をまとめると、概ね高い評価を得ていると思われる。特に、授業方法に関する項目では高い評価を90%以上得ている。講義内容に関しては難易度で71%であり、大学院講義が、学部の内容よりもさらに難易度の高い内容で行われていることを示している。これは学部より高いレベルの講義を行っている現れであり、難易度の評価が低いからと言って必ずしもおしなべて改善する必要はないように思われる。改善点とすれば、大学院講義で討論の時間を設けている講義も多くそのような場で討論に積極的に参加したかどうかで65%程度の評価であるため、この点の改善が求められるであろう。

表10 応用生物科学専攻の集計結果(教員別)

質問番号	質問内容	担当教員														教員平均
		A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	
「授業方法に関する項目」																
質問1	講義のスピードは適切だった	94	95	100	95	88	95	56	100	100	100	86	100	100	50	90
質問2	視聴覚機器は適切であった	90	90	100	91	100	79	56	100	100	60	100	100	83	100	89
質問3	配布資料は役に立った	94	95	100	100	94	63	78	100	100	100	100	100	100	100	95
質問4	授業の形態は適切であった	94	90	100	91	100	79	89	100	90	100	100	100	100	100	95
質問5	教員の対応は丁寧であった	97	90	100	100	94	95	100	100	100	100	100	100	100	100	98
平均(1-5)		94	92	100	95	95	82	76	100	98	92	97	100	97	90	93
「講義の内容に関する項目」																
質問6	シラバスはわかりやすかった	94	90	100	100	94	79	100	100	90	60	100	100	100	100	93
質問7	講義の目標は理解できた	97	90	100	95	88	68	100	100	100	100	100	100	100	100	96
質問8	講義に興味を持てた	94	90	100	73	94	63	100	100	100	100	100	100	100	100	94
質問9	説明は理解しやすかった	97	86	100	82	81	89	67	100	100	100	100	100	100	100	93
質問10	難易度は適切であった	84	95	25	73	88	89	33	71	100	60	86	67	67	50	71
質問11	内容の量は適切であった	94	100	100	82	88	89	67	100	90	80	86	100	83	83	89
質問12	有益な情報や示唆を与えた	90	95	100	100	94	89	100	100	90	80	100	100	100	100	96
平均(6-12)		93	93	89	86	89	81	81	96	96	83	96	95	93	90	90
「学生自身の学習態度に関する項目」																
質問13	予習した	94	24	50	95	75	37	89	86	90	100	43	67	100	67	73
質問14	討議などに積極的に参加した	42	29	50	23	44	79	89	71	100	80	0	100	100	100	65
質問15	さらに学習を深めたいと思った	81	67	100	73	88	58	78	100	100	60	86	100	100	100	85
平均(13-15)		72	40	67	64	69	58	85	86	97	80	43	89	100	89	74
回答者数		31	21	4	22	16	19	9	7	10	5	7	3	6	6	12

5. 授業評価の総括

(1) 学士課程

今年度の報告書では、昨年度に引き続き集計結果は講義科目と実験実習に分けて取り扱った。また講義については、教員数と受講生の規模別に 9 グループに分けて授業評価の集計を行った。

講義については講義の聞き取りやすさなど授業方法や授業環境に関する調査項目、シラバスのわかりやすさや授業量・難易度などの講義内容に関する調査項目、そして予習復習など学生の自主学習状況を調査する項目の 3 項目について調査を行った。授業方法や授業環境に関する調査項目、講義内容に関する調査項目では、どの学科ともおおむね 80%以上の学生が満足しており、全体としての大きな問題点は見られない。ただしほとんどの学科で中～大規模講義においての学生満足度が小規模講義に比べてやや低めに出る傾向が見られた。これは大規模授業では個々の学生に目が届きにくいことを反映しているのかもしれない。また、大規模講義には入門や専門基礎が多く、専門科目に比べて学生側の関心が低いことも影響している可能性がある。学生の自主学習状況では、どの学科も講義科目について「自主的に調べたことがある」学生が 5 割を下回っており、学生の自発性を引き出す講義がなかなかできていないのが現状であり、学生の興味や自発性を引き出す改善努力が必要である。

実験・実習については、講義における集計とは逆に学生による満足度が低い回答について集計している。平均的には実験・実習とも、ほとんどの項目において不満足と回答した学生数は 10%を下回り、学生は概ね満足していることがわかった。

(2) 大学院修士課程

大学院修士課程の授業評価の集計を行ったのは本年度が 3 回目である。大学院は少人数授業のためか、全体的に学生の満足度は非常に高い。

また、受講者数が少ないため集計結果の安定性に欠けるものの、昨年報告書において指摘された予習不足・難易度が適切ではない・学生が討議に参加しない、などの項目については全体的に見ると今年度は改善されている。

資料 1

平成19年度「学生による授業評価」調査票（質問用紙）

科目名：_____、学科名：_____、学年：_____

この調査票は、本学部の授業内容・方法を一層充実・改善するための資料となるものです。記入にあたっては、学生諸君の素直な評価をお願いします。なお、この調査はあなたの成績と一切関係はありません。

下記の項目の質問について、別紙の「学生による授業評価」調査票（回答表）に適切と思われる番号の丸数字を塗りつぶして下さい。複数回答しても結構です。また、それぞれの質問の項目で、指定された箇所以外でも、とくに評価できる点あるいは改善すべき点があれば、「記述欄に書いて下さい。」

A

「この授業方法に関する項目」

1) 講義は、聞き取りやすかったですか。

5: 聞き取りやすかった、4: 早口で聞き取りにくかった、3: 声が小さく聞き取りにくかった、2: その他の理由で聞き取りにくかった。（1~0はなし）

*2に丸印をつけた人は、どのような点が聞き取りにくかったか、記述欄に記入して下さい。

2) 講義を進めるスピードは適切でしたか。

5: 適切、4: 早過ぎる、3: 遅過ぎる。（2~0はなし）

3) 講義において板書の仕方や配布プリントあるいはOHP（液晶プロジェクター）などの視聴覚機器は適切でしたか。

5: 適切であった、4: 板書が読みづらかった、3: OHPが見にくかった、2: プリントやOHPは使用されなかった。（1~0はなし）

4) 教員は講義の進行を妨げるような行為（私語など）があった場合、注意していましたか。

5: していた、4: していなかった、3: そのような私語などはなかった。（2~0はなし）

「講義の内容に関する項目」

5) 配布したシラバスは、講義の内容・進め方についてわかりやすく書いてありましたか。

5: わかりやすかった、4: わかりにくかった、3: シラバスを読んでも内容が良く分からなかった、2: シラバスについて知らなかったので、受講前に読んでいなかった。（1~0はなし）

6) この講義全体の目標はよく理解できましたか。

5: 理解できた、4: 理解できなかった。（3~0はなし）

7) この授業に興味を持ってましたか。

5: 持てた、4: 持てなかった。（3~0はなし）

*4に丸印をつけた人は、興味もてなかった理由は何ですか？記述欄に記入して下さい。

8) 毎回の授業のねらいはその都度明確にされておりましたか。

5: されていた、4: されていない。（3~0はなし）

9) 毎回の授業の内容はよく準備されたものと感じられましたか。

5：準備されていた、4：準備不足。（3～0はなし）

10) 授業での説明は理解しやすかったですか。

5：理解しやすかった、4：理解しにくかった。（3～0はなし）

*4に丸印をつけた人は、どのような点が理解しにくかったか、記述欄に記入して下さい。

11) 授業の内容は難しく（難易度）感じましたか。

5：難しかった、4：適切、3：易しすぎた。（2～0はなし）

*5に丸印をつけた人は、どのような点が難しいと感じたか、記述欄に記入して下さい。

12) 授業内容の量は、適切でしたか。

5：多すぎる、4：適切、3：物足りなかった。（2～0はなし）

「学生自身の学習態度に関する項目」

13) この授業に興味を持ち、自主的に調べたことはありますか。

5：ある、4：ない。（3～0はなし）

14) この授業について、予習しましたか。

5：した、4：少しした、3：しなかった。（2～0はなし）

*3に丸印をつけた人は、何故予習しなかったのか、その理由を記述欄に記入して下さい。

15) 復習をしましたか。

5：した、4：少しした、3：しなかった。（2～0はなし）

*3に丸印をつけた人は、何故復習しなかったのか、その理由を記述欄に記入して下さい。

資料2

平成19年度「学生による授業評価」実験・実習に関する調査票（質問用紙）

科目名：_____、学科名：_____、学年：_____

この調査票は、本学部の実験・実習内容・方法を一層充実・改善するための資料となるものです。記入にあたっては、学生諸君の素直な評価をお願いします。なお、この調査はあなたの成績と一切関係はありません。

下記の項目の質問について、別紙の「学生による授業評価」調査票（回答表）に〔 〕の中から適切と思われる番号の丸数字を塗りつぶして下さい。また、この実験・実習に関する感想や評価できる点あるいは改善すべき点、があれば、回答表のコメント欄に記入してください。

〔5：非常に満足 4：やや満足 3：普通 2：やや不満 1：非常に不満〕

A

「実験・実習に関する項目」

1. 実験・実習に関するシラバスは、適切であった。
2. 実験・実習の時間設定が適切であった。
3. 実験・実習に関する資料（実験書あるいはプリント資料）は学生に理解できるように工夫されていました。
4. 実験・実習に関する説明は要点が理解できる説明であった。
5. 機械・器具の使用法の説明が明確であった。
6. 実験・実習前あるいは実習中の教官の説明は適切であった。
7. 実験・実習に教官としての熱意が感じられた。
8. 学生の質問に丁寧に対応していた。
9. 実験・実習器具・機械が適切に配分されていた。
10. 不適切（不真面目な学生も含む）な実験・実習をしている学生にはその都度、教官は注意する等の指導をしていた。
11. レポートの書き方の指導が適切であった。
12. レポートの考察や学習課題等の助言がなされていた。
13. レポートの評価（訂正等）は適切であった。
14. あなたは実験を通じて、実験技術等が向上しました。
15. ティーチングアシスタントは適切な指導補助を行いました。

資料 3

平成19年度「学生による大学院授業評価」調査票（質問用紙）

科目名： _____、専攻名： _____、学年： _____

この調査票は、本農学研究科の授業内容・方法を一層充実・改善するための資料となるものです。記入にあたっては、学生諸君の素直な評価をお願いします。なお、この調査はあなたの成績と一切関係はありません。

下記の項目の質問について、別紙の「学生による授業評価」調査票（回答表）に適切と思われる番号の丸数字を塗りつぶして下さい。複数回答しても結構です。また、それぞれの質問の項目で、指定された箇所以外でも、とくに評価できる点あるいは改善すべき点があれば、「記述欄」に書いて下さい。」

「この授業方法に関する項目」

- 1) 講義を進める速さは適切でしたか。
5：速すぎる、4：適切、3：遅すぎる。（2～0 はなし）
- 2) 講義において板書の仕方や OHP（液晶プロジェクター）などの視聴覚機器の使用は適切でしたか。
5：適切であった、4：板書が読みづらかった、3：OHP が見にくかった、2：OHP は使用されなかった。
（1～0 はなし）
- 3) 配布された資料・文献などは、授業内容を理解する上で役立った。
5：役立った、4：そう思わない。（3～0 はなし）
- 4) 授業の形態（演習形式など）は適切であった。
5：適切であった、4：そう思わない。（3～0 はなし）
- 5) 教員は学生の質問に丁寧に対応し、熱意が感じられた。
5：感じられた、4：そう思わない。（3～0 はなし）

「講義の内容に関する項目」

- 6) シラバスで紹介された講義の内容・進め方はわかりやすく書いてありましたか。
5：わかりやすかった、4：わかりにくかった、3：シラバスを読んでも内容が良く分からなかった、2：シラバスについて知らなかったので、受講前に読んでいなかった。（1～0 はなし）
- 7) この講義全体の目標とするところをよく理解できましたか。
5：理解できた、4：理解できなかった。（3～0 はなし）
- 8) この授業は興味をもてましたか。
5：持てた、4：持てなかった。（3～0 はなし）
- 9) 授業での説明は理解しやすかったですか。
5：理解しやすかった、4：理解しにくかった。（3～0 はなし）
- 10) 授業の内容は難しく（難易度）感じましたか。
5：難しかった、4：適切、3：易しすぎた。（2～0 はなし）
- 11) 授業内容の量は、適切でしたか。
5：多すぎる、4：適切、3：物足りなかった。（2～0 はなし）
- 12) この授業は、有益な情報や示唆を与えた。
5：与えた、4：与えなかった。（3～0 はなし）

「学生自身の学習態度に関する項目」

- 13) この授業について、予習（準備）しましたか。
5：した、4：少しした、3：しなかった。（2～0 はなし）
- 14) 質問、発言、討議など授業へ積極的に参加しましたか。
5：した、4：少しした、3：しなかった。（2～0 はなし）
- 15) 授業内容についてさらに学習を深めたいと思いましたか。
5：そう思う、4：どちらかというと思う、3：どちらともいえない、2：どちらかというと思う、1：そう思わない。